

「第4期京都市民長寿すこやかプラン」の中間報告に係る市民説明会及びパブリックコメントの実施結果について

1 中間報告に係る説明会等の実施状況

	説明会等の実施回数	参加者数
市民説明会	1回	210名
区役所・支所	32回	923名
長寿社会部	11回	447名
合計	44回	1,580名

2 市民説明会及びパブリックコメントの実施結果

	アンケート提出者数	意見・提言数
市民説明会（1回）	29名（参加者210名）	54
パブリックコメント	52名，3団体	137
合計	81名，3団体	191

<参考：前回の結果>

	アンケート提出者数	意見・提言数
市民説明会（6回）	63名（参加者495名）	89
パブリックコメント	123名，1団体	150
合計	186名，1団体	239

3 市民説明会

日 時：平成20年11月17日（月）14：00～16：00

会 場：ひと・まち交流館京都 2階 第会議室

参 加 者：210名

アンケート提出者： 29名（54の意見・提言）

<意見・提言の内訳>

種別	意見・提言数
第4期プラン	5
施設サービス	5
居宅サービス	2
地域密着型サービス	1
介護予防	2
地域支援事業	1
地域包括支援センター	1
介護保険制度	3
介護保険料	6
人材確保・定着	6
地域ケア	3
権利擁護事業	1
認知症	1
知恵シルバーセンター	1
一人暮らしお年寄りサポーター	5
老人福祉員	1
生きがい支援	1
市民説明会	6
その他	3

※ 前回の結果

参 加 者：495名

アンケート提出者： 63名（89の意見・提言）

4 パブリックコメント

日 時：平成20年11月17日（月）～12月16日（火）

アンケート提出者：52名，3団体（137の意見・提言）

<意見・提言の内訳>

種別	意見・提言数
第4期プラン	18
施設サービス	10
居宅サービス	10
介護予防	7
地域包括支援センター	4
介護保険制度	11
介護保険料	12
介護相談員	2
人材確保・定着	15
地域ケア	8
権利擁護事業	2
高齢者虐待	1
生きがい支援	6
知恵シルバーセンター	4
一人暮らしお年寄りサポーター	3
老人福祉員	3
すこやか学級	2
世代間交流	3
健康増進	2
認知症	1
敬老乗車証	1
その他	12

※ 前回の結果

アンケート提出者：123名，1団体（150の意見・提言）

市民説明会で寄せられた意見・提言

No.	性別	年齢	意見分類	意見内容
1	女性	30代	第4期プラン	良くなる政策を是非お願いする。皆が住みやすい京都市になりますように。
2			第4期プラン	市長は就任1年間じっくりと研究してプランを組むべきである。
3			第4期プラン	財源を職員の給付を減らすことなく、事業見直しをするべきである。
4	女性	70代	第4期プラン	高齢者が多くなるに伴い、今の状況よりも少しでも安らげるように望む。
5	女性	40代	第4期プラン	中間報告をただ読み上げるのではなく、ポイントをしばって話をされた方が良いのではないか。
6	女性	40代	施設サービス	ひとり暮らしの高齢者世帯が飛躍的に増加とされているが、この方に対して、居宅サービス利用者数イメージで特定施設入居者生活介護数の見込みが1,017名と少ない気がする。
7	女性	40代	施設サービス	21年度の取組に対し、事業所への申請等はいつから開始されるのか。
8	女性	70代	施設サービス	施設の増加を願う。
9			施設サービス	特養の進捗率99.1%ということであるが、現在の待機者数と、平均の待っている期間は？
10			施設サービス	2012年の療養病床の廃止に伴う受け皿を具体的に教えてほしい。
11	男性	40代	居宅サービス	居宅サービス利用者数の見込みで居宅サービス利用者数のうち、介護給付より予防給付の利用者数の伸び率が高いが、認定者数からということであるが、サービスの特性にかかわらずこの伸び率で計算しているのではないか。訪問看護の予防給付がこんな伸び率になるとは考えられない。必要以上に保険料を徴収して余ることになればと心配している。
12			居宅サービス	緊急ショートステイ（市内5ヶ所）は現在緊急に使えない。改善策は？
13	男性	40代	地域密着型サービス	認知症グループホームの整備促進が地域密着型サービスの主な施策に掲げられていますが、民間法人が参入する場合、現状の基本1ユニットでは運営は大変にきびしく、2ユニットでなければ参入出来ない現状です。この点について、是非検討していただきたい。
14	男性	50代	介護予防	2006年度の改定による介護予防について、その効果については、十分な検証が行われているのか？
15	男性	70代	介護予防	介護予防について重要性を言っておられるが、なぜやらなければならないのか。
16			地域支援事業	地域支援事業に要する費用は保険給付外の費用ではないのか。なぜ、給付外の費用に保険料を充てるのか？
17	女性	50代	地域包括支援センター	包括支援センターの職員は、人手不足で大変と聞いている。増員をお願いしたい。
18	男性	50代	介護保険制度	平成17、18年度に施設給付費が減っているのは何が原因か？
19	男性	80代	介護保険制度	1割負担のサービス利用料の京都市独自の減免制度を創設されたい。
20	男性	70代	介護保険制度	制度について現状のことについて理解できるのだが、介護保険サービスの利用料を負担できないので、利用しないという人がおられる。このような方に対して行政としての対応があるのか。
21	女性	50代	介護保険料	保険料を増額しなくても充実してやっていけるということになるのか？
22	男性	80代	介護保険料	第4期保険料は、第3期の余剰分により、値下げすることはできないのか。
23	男性	80代	介護保険料	現在の9段階の区分を増やし、低所得者の保険料の引き下げ及び、高所得者への負担増はできないのか。
24			介護保険料	第3期の剰余金を次期保険料軽減分に充てるとどれぐらいの軽減額になるのか？またなぜそうしないのか？
25	男性	50代	介護保険料	第3期の予算剰余分について、第4期にどのように活用するのか教えて欲しい。特に、不景気が進行しつつある今、介護保険料の更なる軽減措置の充実、市独自の利用料負担の軽減措置に、活用して欲しい。
26	女性	50代	介護保険料	第3期保険料積立金見込みについて。予想内の額か？多いのか少ないのか？保険料を増額しなくても充実してやっていけるということになるのか？
27	男性	70代	人材確保・定着	介護保険は利用者本位であり、介護者の立場を考えるものではないが、ケアする人をケアするあり方も支援していただきたい。
28	女性	40代	人材確保・定着	介護人材の養成について、外国人の方をお願いするのではなく、もっと日本人の中で人材を集め、養成する努力をしていただきたい。

市民説明会で寄せられた意見・提言

No.	性別	年齢	意見分類	意見内容
29	男性	60代	人材確保・定着	福祉は“人”である。どんな高い理念を作っても、そこで現場の人が離職していくようでは、冷たい福祉である。国、市共に特養等現場で働く人々に公的支援を行うべきである。現場の人々が長続きする体制を考えなくして、人生の最終を任せることは出来ない。今の福祉は民間丸投げである。もっともっと公が責任を持つべきである。
30	男性	70代	人材確保・定着	介護サービス分野における離職者の増加、求職者の減少。まず一番にこの件案を考えてほしいと思う。
31	女性	60代	人材確保・定着	高齢社会になってきた。利用が増えると、介護保険料が高くなり、若い人の負担が増えるので、若い人の待遇を良くすることが大切である。若い人の生活が安定するためどうすれば良いのか。
32	女性	60代	人材確保・定着	グループホーム等でひとり暮らしの高齢者が入居する場所はあるのか。充実した設備が設けられるよう希望する。
33	男性	70代	地域ケア	地域社会での介護のあり方についても触れてほしい。地域との市民のつながりが失われていく今日、この点を活性化させる具体的な方法の実現をお願いしたい。
34	女性	60代	地域ケア	重点課題6「身近な地域での取組」に応援がほしい。(小規模な高齢者と子供との交流)地域で見守る施設の充実、老老介護、在宅介護の充実といい、親子関係が見えないのが淋しい限りである。
35			地域ケア	住民が地域活動の視点展望をするべきである。
36	男性	50代	権利擁護事業	権利擁護の支援員が非常に不足している。その対策は何か考えられているのか。
37			認知症対策	市社協の自立生活支援事業や認知症対策は暫定措置である。
38	女性	60代	知恵シルバーセンター	知恵シルバーセンターの新しい活動はとてもいい考えだと思う。
39	男性	70代	一人暮らしお年寄りサポーター	一人暮らし支援ボランティアの対策に期待する。
40	女性	60代	一人暮らしお年寄りサポーター	一人暮らしサポーターは老人福祉員と協力するということか。
41	女性	60代	一人暮らしお年寄りサポーター	「一人暮らしお年寄りサポーター」にも期待する。
42	女性	50代	一人暮らしお年寄りサポーター	老人福祉員をしているが、「一人暮らしお年寄りサポーター」と老人福祉員とは同じ役割のように思う。日頃、担当地区が広く(自分の町内以外に2町内を担当)、役目を十分に果たせていないので、サポートする人員が増えるのはありがたいが、同じ役割で立場が異なるのは分かりにくい。
43	男性	50代	一人暮らしお年寄りサポーター	老人福祉員とお年寄りサポーターの違いは?一緒にできるのではないか。
44	女性	60代	老人福祉員	老人福祉員をしているが、地域の高齢化が急速に進み、特に団地という環境上、入居30年余りで、40代50代の人口が少なく、ひとり暮らしの高齢者の見守り等、困難な問題が出てきている。老人福祉員の受け持ち地域での複数化を期待している。
45	女性	60代	生きがい支援	みんなが集まりやすいように、地域の空家など場所の提供を考えていただきたい。助成金についても考えていただきたい。
46	女性	70代	市民説明会	もっと身近に分かりやすい収支の説明も頂ければ幸いである。
47	女性	70代	市民説明会	出来るだけ市民に分かりやすいプランの説明を望む。
48	女性	60代	市民説明会	第4期プランは実施できれば素晴らしいと思うが、今後もっと分かりやすく具体的な説明の機会がほしい。
49	女性	70代	市民説明会	このような報告を、地域の身近なところでわかりやすく、65歳以上の人に伝わるようにしていただきたい。
50	女性	70代	市民説明会	収支の報告もわかりやすくしていただきたい。
51	女性	60代	市民説明会	説明が早すぎてわかりにくい。
52	女性	70代	その他	私事だが、後期高齢者になった。いつまで続けられるかわからないが、少しでも世の中の役に立ちたい気持ちを持っている。
53	女性		その他	本日はご苦労様でした。
54	男性	70代	その他	なかなか難しい問題なので、質問・意見等はその時点になってから考えたい。今は、健康なので、今日いただいた資料を参考にしていきたい。

パブリックコメントで寄せられた意見・提言

No.	提出方法	性別	年齢	意見分類	意見内容
1	はがき	男性	70代	第4期プラン	第4期プランに新規施策が折り込まれているのは結構なことである。しかし、それぞれに要する事業費は、概算額を積み上げたものなのか。また、財源は何か。概算額、財源が明確でないと、施策の羅列だけで、共感が得られない。
2	F A X	男性	60代	第4期プラン	第3期は見込みよりサービス利用実績が下回るとのことだが、何故、サービス利用実績が下回ったのかを考えていない。受けたいサービスが受けられないから実績が下回った事実を重視しなければ意味がない。
3	F A X	男性	60代	第4期プラン	「日本一の福祉先進都市」と呼ばれるような政策を打ち出し、実現していただきたい。
4	手紙	団体		第4期プラン	全般的に主な施策が列記されているが、誰が、どのように役割を担って展開していくのかが不明瞭。
5	手紙	団体		第4期プラン	耳障りのよい言葉で簡単な重点課題となっている。それに基づく施策体系や事業化のイメージが見えにくい。
6	手紙	団体		第4期プラン	地域において高齢者福祉を支えてきた社会福祉協議会やボランティア等の評価が不明瞭であり、そうした活動の蓄積を次期プランにどう生かすかが見えない。
7	メール	男性		第4期プラン	認知症のひとと家族の会代表者が「すこやかプラン協議会」に加わっていることは高く評価する。介護相談員の代表も加えたらどうか。
8	メール	男性		第4期プラン	地域における家族会や施設入居者等の家族会の活性化が不可欠であり、そのための市民参画をしっかりと位置づけすべき。市民参画についてしっかりとポリシーを示し、実行していただきたい。
9	F A X	男性	60代	第4期プラン	重点課題や各施策に新規事業が追加されているが、第3期までの施策をしっかりと見直し、「費用対効果」の評価をきちんと行い、大胆に見直しされたい。それが行われないと、保険料の引き下げにつながらない。
10	F A X	男性		第4期プラン	「高齢者のための医療・介護を考える懇話会」の類の会を作ることを盛り込むのはどうか。すこやかに暮らすために医療介護の質の充実は必須である。
11	はがき	女性	60代	第4期プラン	15年前に民生委員に就任したが、その当時から10年後には高齢者が4人に1人であると研修で聞かされている。政策の「遅れ」を感じる。
12	手紙	団体		第4期プラン	巻頭の「少子長寿社会」という言葉が目についた。少子をマイナスイメージで、長寿をプラスイメージでとらえるのかよくわからない。本文に使用していないのも一貫性がない。
13	手紙	団体		第4期プラン	高齢者介護の実態について、分析がなされているが、不十分である。男性介護者が急増し、その方たちが虐待を引き起こすしやすいといわれている傾向に触れられていない。また「老老介護、認認介護、遠距離介護、通勤介護等」の実態についても触れられていない。
14	手紙	団体		第4期プラン	本人支援として一人でも在宅で生活できる、ケア、経済、生きがい、若年認知症者への仕事保障等が必要。また、家族介護への強制もない、家族介護から排除もない、介護方針の選択が可能な支援策が必要。自治体として、独自の施策、上乘せ、横出しの施策を計上すべきである。
15	手紙	団体		第4期プラン	重点課題1は施設の整備に重きを置いており、家族の生活を支えるという実感が感じられない。利用者も介護者も様々であり、柔軟で機動力ある家族介護支援が求められる。家族の支援という項を起すべきではないか。
16	はがき			第4期プラン	「老人」や「お年寄り」と名称がついている事業があるが、もっといいネーミングを作ってはどうか。自分では老人とは思っていない高齢者もいる。
17	はがき			第4期プラン	これからは後期高齢者が増え、介護だけではなく医療が必要な高齢者が増える。在宅での介護や医療にはお金がかかるので、低所得者に配慮した施策を望む。
18	手紙	女性	20代	第4期プラン	京都市内の多くの方に計画・制度を知ってもらう必要があるのではないかと。
19	F A X	女性		施設サービス	特養、老健など、施設サービスが少ない。
20	F A X	女性		施設サービス	療養病床の減少は重度の要介護者を介護する者にとって、精神、身体的に負担になっている。
21	F A X	女性		施設サービス	特別養護老人ホームを作って欲しい。ユニット型は生活保護受給者は入れないので、生活保護受給者を多く抱える事業者として強く憤りを感じる。低所得で在宅介護が難しくなった高齢者は最期をどこですごせばいいのか。
22	はがき			施設サービス	24年3月末に療養病床が廃止されるということだが、既に入所している人が介護難民にならないようしっかり受け皿づくりなどの整備に取り組んでいただきたい。
23	はがき			施設サービス	特別養護老人ホームの数は足りているのか。なかなか入れないとよく聞かすが、中間報告にある整備目標数で足りるのか。もっと特養が増えることを希望する。
24	はがき			施設サービス	個室の特養は料金が高くなるので、大部屋の特養も今後は整備してはどうか。
25	手紙	団体		施設サービス	介護療養病床の再編成と円滑な転換に向けた支援の項について、わかりにくい。市民が読んで理解できないような表現では、関心を求めにくいのではないかと。

パブリックコメントで寄せられた意見・提言

No.	提出方法	性別	年齢	意見分類	意見内容
26	手紙	団体		施設サービス	施設でのサービスについて、入所してしばらくすると、元気がなくなる方が多いように思う。施設サービスのあり方について、法人のトップや施設管理側の方針や考え方、姿勢に関係しているのではないかと。
27	手紙	団体		施設サービス	施設内のボランティア導入について、もっと活用すべきである。ボランティアの見守りや傾聴など、一人ひとりに関わることにより、施設入所者の加速的加齢減少は緩和されるのではないかと。
28	はがき			施設サービス	特別養護老人ホームなど施設の数がまだまだ足りない。もっと作って欲しい。
29	F A X	女性		居宅サービス	ケアマネジャーの仕事量が煩雑すぎ、時間に追われている。このままでは利用者に向き合う時間も減ってしまう。ケアマネジャーの仕事を増やさないで欲しい。
30	F A X	男性		居宅サービス	同居者がいる場合の訪問介護の援助内容について、規制を強化する方向ではなく、現場のヘルパーが一定の裁量権を持ち臨機応変に対応できるように対策を講じるべきではないかと。
31	F A X	女性		居宅サービス	ヘルパーの当日キャンセル分はヘルパーの給料にならない。保険料で給付するなど配慮して欲しい。
32	F A X	女性		居宅サービス	出来るだけ在宅へと言うならば、ショートステイの利用したいときに利用できるような環境を作ってほしい。ショートステイ利用希望のある方に対して、ケアマネとして、あちこち当たってもその思いに応えられず、大きなストレスとなっている。
33	F A X	女性		居宅サービス	在宅生活を維持したくても、ヘルパーの利用もままならない今の制度では、とても高齢者の生活を支えることができない。
34	F A X	女性		居宅サービス	療養病床の廃止により、在宅に戻る利用者が多いにもかかわらず、在宅政策が少なすぎる。介護を必要としている方に対して、訪問介護等のサービスが少なく、在宅サービスを調整するのが困難。
35	F A X	女性		居宅サービス	ヘルパーの仕事は重労働にもかかわらず、給料が安く、やめていく人が多い。ヘルパーの給料を上げてほしい。
36	F A X	女性		居宅サービス	在宅介護が困難なためにショートステイを利用する人が多いが、ショートステイの利用できる施設が少なすぎる。緊急ショートステイも緊急で利用できない。
37	F A X	女性		居宅サービス	ショートステイの利用先が少なすぎる。新規で利用しようと思うとかなりの困難である。急な希望など利用者のニーズに応えられず、ケアマネも何の報酬もないというただ消耗するだけの仕事になっている。少し預かってもらえばまた介護を頑張ろうと思っている家庭はとても多い。高齢者ができるだけ長く在宅で過ごせるためにショートステイの充実を望む。
38	手紙	団体		居宅サービス	同居家族のいる家庭での生活援助について、国は通達を出して一律の切捨てをしないようにいつてきたが、担当者の助言の足りなさから、多くの利用者が切り捨てられている。保険者が具体的なアセスメント事例を示すべきである。保険者が利用者の側に立たないで適正な運用といえるのか。
39	F A X	男性		介護予防	地域で介護予防事業促進のために会場費の助成支援策を具体的に講じていただきたい。
40	手紙	団体		介護予防	介護予防の推進について、地域における介護予防活動ともいえる「健康すこやか学級」や老人福祉センターの位置づけが必要である。
41	手紙	男性	70代	介護予防	平成18年度改正で、介護予防推進センターが設置され、はじめは色々事業をされていたが、最近は何もない。センターに問い合わせても、つれない返事だった。第4期プランでは介護予防について詳しく挙げられているが、十分な介護予防が行われるのか。
42	手紙	男性	70代	介護予防	地域包括支援センターが介護予防の拠点になると言われているとおり、センターを十分に利用することができるようにしていただきたい。
43	F A X	男性	60代	介護予防	民生委員協議会が主催して、介護予防推進センターから指導員の先生にきていただいているが、参加者は女性のみであり、近所とお付き合いのある比較的元気な方である。できれば1人暮らしの引きこもりの方や男性の方等が気楽に参加していただけるようなプランを考えていただきたい。
44	手紙	女性	70代	介護予防	介護予防を重点課題と位置づけているが、介護予防はやってもらえるのか。十分な予防をし、元気を取り戻すことが出来るようにしてほしい。
45	はがき			介護予防	介護予防を重視しているが、効果は出ているのか。
46	F A X	男性		地域包括支援センター	地域包括支援センターの体制や活動の充実のために、特定高齢者の介護予防プラン作成費や啓発事業の委託費の増額など支援策をもっと充実させるべき。
47	F A X	男性	70代	地域包括支援センター	地域包括支援センターを軸とした事業をすすめ、各種のサービスを提供していくためには、現状の要員では不十分であり、職員の増員と待遇改善が急務である。
48	手紙	団体		地域包括支援センター	総合的な介護予防推進について、地域包括支援センターに大きな期待がかかっているが、この運営や体制を整える必要がある。職員の質にばらつきがあるとされており、今後の運営体制等のレベルアップのため、自治体の責任を明確に示すべきである。
49	手紙	男性	20代	地域包括支援センター	地域包括支援センターについて、地域の高齢者の方になじみが薄いのではないかと。
50	F A X	男性		介護保険制度	独自の利用料減免制度について意見交換を行っていただきたい。

パブリックコメントで寄せられた意見・提言

No.	提出方法	性別	年齢	意見分類	意見内容
51	手紙	男性	70代	介護保険制度	現在、要支援の認定を受けているが、センターからは利用できる介護サービスは何もないと言われた。以前担当者から、介護保険制度は、強制加入、保険料は毎年掛け捨てであり、保険給付等一切ないと言われたことがある。軽度の要介護者は簡単には利用できないのか。
52	手紙	男性	70代	介護保険制度	重度の要介護者が「自分はお荷物だ」と思わないよう、よりよい制度にしていきたいと思います。
53	手紙	男性	70代	介護保険制度	介護保険制度の改正の動きで、保険財政の視点からのみ提案された軽度者に対する介護給付の見直しによる試算で、「要支援」から「要介護」までの軽度のものを介護保険制度の対象外とするということに納得できない。
54	F A X	女性		介護保険制度	介護の社会化という理念から出発した制度にもかかわらず、逆行していると感じている。
55	手紙	女性	70代	介護保険制度	介護認定の更新で、期間満了日以前60日前から申請を受け付けているので早く提出せよとの事だが、これらの資料は担当ケアプランセンターが把握しているので、本人ではなく、直接ケアプランセンターに指導して欲しい。
56	手紙	女性	70代	介護保険制度	要介護の認定を受けているが、少々障害があるとはいえ、ふさわしいサービスがありませんとは、何のための介護保険サービスなのか。
57	はがき	女性	60代	介護保険制度	介護保険料は年金から徴収されているが、介護保険を利用している人からすべての介護サービスが受けられることはない聞いた。本当なのか？年金生活をしているものにとっては不安である。
58	手紙	団体		介護保険制度	居宅での生活確保のために介護保険法の積極的な運用をおこない、介護保険法がするべきことは介護保険法で対応し、市民に信頼される事業となるようにしていきたいと思います。介護保険法が担うべきことをボランティアに担わせるべきではない。
59	手紙	団体		介護保険制度	ケアプランの自己作成について、きちんと市民に説明すべきである。自分でケアプランを作成することが尊厳と自立につながる。他府県では、保健師が家庭訪問をして、ケアプランを自分で立てるか、保健師が立てるか選択できると説明している。
60	手紙	団体		介護保険制度	外部の介護サービスになじみにくい高齢者がたくさんおり、家族や友人関係で何とか保っているケースをよくみる。家族介護や友人介護のような視点、さらには現金給付の併用を考えることはできないか。
61	F A X	男性		介護保険料	独自の保険料軽減策をより改善することについて意見交換を行っていただきたい。
62	手紙	男性		介護保険料	介護保険料について、「第4段階の下」を設けていただきたい。積立金32億円の取り崩しにより、次期保険料値下げを表明されたが、この財源を活用すれば、十分実施は可能ではないか。
63	手紙	男性	70代	介護保険料	国の所得段階は6段階だが、京都市では9段階に設定して減額に努めているということだったが、平成18年度から9段階に変更された。むしろ値上げになっているのではないのか？
64	手紙	男性	70代	介護保険料	保険料の所得段階区分が世帯になっているため、所得0円であっても高水準の段階になる。この仕組みを考え直すべきではないか。
65	手紙	男性	70代	介護保険料	特別徴収されているため、世帯主の社会保険控除ができない。むしろ増税となっているのではないのか。
66	F A X	男性	60代	介護保険料	第4期では概ね保険料の据え置き方向であるが、京都市の保険料は高いほうであり、引き下げの努力をすべきである。
67	はがき			介護保険料	本人は年金月額3万円程度だが、世帯員が課税されているため、4段階になっている。本人1人世帯なら2段階のところ、4段階の負担は大きすぎる。世帯員が課税されている場合でも、その所得額によっては本人の保険料段階に影響を与えないようにできないのか。
68	F A X	女性		介護保険料	高額介護保険料や社会保障に充てるといって引き上げた消費税のお金はどこに使っているのか。納得できるお金の使い方をしてほしい。
69	F A X	男性		介護保険料	市長が議会で「積立金を取り崩して介護保険料を引き下げる」と答弁されたが、市民説明会で、「積立金の活用については慎重に検討する」と介護保険課長が答弁されたばかり。手続的に問題はないのか。
70	はがき			介護保険料	高齢者は主に年金で暮らしているので、保険料の支払が苦しい。保険料を値下げして欲しい。
71	はがき			介護保険料	介護保険料が高い。もっと低所得者に配慮したものにしていきたいと思います。
72	手紙	男性	20代	介護保険料	高齢者の割合がH18は20.8%、H23は24.9%ということだが、5%近く人口が増加するのに、第3期と第4期の介護保険料が同じで本当に大丈夫なのか。
73	メール	男性		介護相談員	介護相談員としての介護事業に対する市民参加の展望を示し、短期間でやめる人が出ないようにしていただきたい。数も少ないのではないのか。
74	手紙	男性	20代	介護相談員	介護相談員派遣事業の相談数が増加しているのに、相談員数は横ばいのなのか。
75	はがき	男性	50代	人材確保・定着	デイサービスで介護職をして8年目になるが、収入が増えない。離職していく職員も数え切れない。重点課題5-3にあげられていることは急務である。介護報酬を引き上げそれを職員に充当するとの案があるようだが、それだけなのか。

パブリックコメントで寄せられた意見・提言

No.	提出方法	性別	年齢	意見分類	意見内容
76	はがき	男性	50代	人材確保・定着	学区社協の評議員として昼食会、茶話会、健康すこやか学級の企画運営をボランティアで行っているが、地域支援、介護予防サービスの拠点としての地域包括支援センターも多忙のため、なかなか協力を得られない。人材確保をよろしく願いたい。
77	はがき	男性	60代	人材確保・定着	福祉は“人”である。どんな高い理念を作っても、そこで現場の人が離職していくようでは、絵にかいたもちである。国、市共に特養等現場で働く人々に公的支援を行うべきである。現場の人々が長続きする体制を考えなくて、人生の最終を任せることは出来ない。今の福祉は民間丸投げである。もっともっと公が責任を持つべきである。
78	F A X	女性	40代	人材確保・定着	ケアマネジャーをしているが、虐待ケース等では、ケアマネジャーの2人派遣を考えていただきたい。地域包括支援センターは人手不足で国の理想論には程遠い状態である。
79	F A X	男性		人材確保・定着	介護従事者に対し、人材確保のための具体的な対策が不十分。研修の充実だけでなく、賃金、処遇面における独自の支援策が必要ではないか。
80	F A X	男性	60代	人材確保・定着	全国の施設が現場介護職員の確保に苦労している。積立金32億円は介護職員の待遇改善を目的として、施設に配分したらどうか。
81	F A X	男性	60代	人材確保・定着	給料等待遇の改善、派遣社員・フリーター等から人材確保するためには、やりがいがあり、将来的に期待が持てるような環境の構築が必要である。
82	F A X	女性		人材確保・定着	介護に携わる職員の給料を上げてほしい。
83	F A X	女性		人材確保・定着	介護サービスに携わっている職員の給料は低く、夢を持って仕事に就いた人も他の仕事に変わる現状を多く見ている。安心して生活できる社会、在宅の政策が必要である。
84	はがき			人材確保・定着	介護の現場の人材確保・定着は今本当に必要な施策だと思う。不況になると介護職の人材確保の問題も一定改善されると思うが、景気に左右されないような積極的な施策展開がされることを期待する。
85	手紙	団体		人材確保・定着	介護サービス分野の劣悪な労働条件を改善するのは当然である。
86	はがき			人材確保・定着	介護の職場は人材不足で困っている。これから元気な高齢者が増えるので、この方たちを活用するような仕組みを作ってはどうか。
87	手紙	女性	20代	人材確保・定着	ひとり暮らしで寂しい思いをしている高齢者や介護が必要な方にとっては、養護や介護施設の存在はととてもありがたいと思うが、従業員の数は足りているのか。
88	手紙	女性	20代	人材確保・定着	介護サービスは仕事の負担が心身ともに大きいという事を強く感じるので、介護従事者の確保と定着の推進が新規施策に掲げられて、うれしく思う。
89	手紙	男性	20代	人材確保・定着	介護サービスに携わる人材不足の問題を含めて、介護を支える施策が今後重要ではないか。
90	手紙	団体		地域ケア	地域包括支援センターを中心とした概ね中学校圏域での支援システムの構築は理解できるが、そこと地域活動との協働、連携の実践的検討が必要であり、区社会福祉協議会の果たす役割を明確に位置づける必要がある。
91	F A X	団体		地域ケア	北部等山間部では高齢化が進んでいるが、交通機関の不備や医療機関の未整備があり、高齢者の住みなれた地域での生活の継続が困難な状況に陥っている。よって、北部等山間部の特性に配慮された施策の構築が必要である。
92	はがき			地域ケア	高齢者にとって、医療と介護はととても必要。医療と介護がうまく連携できるような仕組みを作っていただきたい。
93	F A X	男性	70代	地域ケア	地域における支援体制として、自治連合組織、学区社会福祉協議会、市政協力委員、その他各種団体と幅広く連携すれば、さらに地域密着型の施策が期待できるのでは。
94	手紙	団体		地域ケア	地域全体で見守るネットワーク作りの推進はととても大事なことである。学区には自治連合会、市政協力員、社会福祉協議会など自治組織という資源があり、これらがうまく住み分けている場合は、地域福祉の大きな担い手になるが、必ずしもそのようになっていないところもある。
95	手紙	団体		地域ケア	「ご近所見守りクラブ」というような自治的互助クラブの創設を考えてはどうか。支援が必要な家族が互助的な会員組織として助け合うことはできないか。
96	手紙	団体		地域ケア	地域の暮らしのケースマネジメントのような相談窓口を創設してはどうか。電化製品など生活必需品についての日進月歩の変化は高齢者にはわかりにくい。このようなことを身近に相談できる人がほしい。
97	手紙	女性	20代	地域ケア	高齢者の介護といっても、ひとり暮らしの方や同居されている方、経済面、身体面など、ひとりひとり違った対応が必要。近所の人にも協力を求めることが大切なのではないか。
98	手紙	団体		権利擁護事業	認知症高齢者の増加に伴い、その地域生活を継続していくためのセーフティネットとして役割を果たしている「地域福祉権利擁護事業」について、高齢者福祉の観点からも積極的な位置づけが必要である。
99	F A X	団体		権利擁護事業	地域福祉権利擁護事業は、地域福祉課が所管し、現在策定作業中の「京・地域福祉推進指針（仮称）」にも取り上げられている。この事業は、地域包括支援センターで実施している「権利擁護」にも密接に関わる事業であり、高齢者の保健福祉を総合的に推進する本プランにも取り上げていただきたい。

パブリックコメントで寄せられた意見・提言

No.	提出方法	性別	年齢	意見分類	意見内容
100	F A X	女性	40代	虐待	ケアマネジャーをしている。虐待ケース（保護課、支援課と一緒に動いていたケース）で、精神疾患があり、父親に暴力をふるっているにもかかわらず、保健所の対応が鈍感で、精神疾患のある息子に殴られ、傷害事件になった。このような危険なケースはどのくらいあるのか。
101	はがき	女性	60代	生きがい支援	高齢者の人が孤独にならずに安心して豊かな気持ちで過ごせる町づくりをしていただきたい。一日楽しく過ごせる場所、その中で、ボランティアのできる方はボランティアをするとお互いに助け合えることも生きがいになるのでは。
102	F A X	団体		生きがい支援	老人福祉センターは開設当初から高齢者の生きがいづくりを目指している。様々な生きがいづくり事業に老人福祉センターを位置づける必要がある。
103	はがき			生きがい支援	時間に余裕のできた高齢者にはまだまだ現役で頑張りたい人もたくさんいる。今後、このような高齢者をいかに活用するのが問われているのではないかと。
104	はがき			生きがい支援	団塊の世代が高齢期を迎えてこれから元気な高齢者がますます増えるので、このような元気な高齢者が活躍できる場や機会をたくさん作って欲しい。
105	手紙	男性	20代	生きがい支援	高齢者に生きがいを提供し、介護認定者になるのを未然に防ぐことが大事である。
106	手紙	男性	20代	生きがい支援	高齢者の社会貢献事業には何があるのか。
107	手紙	団体		知恵シルバーセンター	高齢者の多様な能力を生かす「知恵シルバーセンター」の整備については、潜在的な社会資源の掘り起こし、活用という点での発想は評価できるが、「登録・情報発信・提供」という仕組みの大きさ、重さが想定されていない。
108	F A X	男性		知恵シルバーセンター	「知恵シルバーセンター」や「お年寄り子どもたちとの交流が図れるネットワークづくり」など非常に適切なプランであるが、具体化するには様々な世代が直に触れ合って、学び確認しあえる実践の場所がなければ意味がない。比較的遅れている地域で行政が直に乗り出してモデルを作ることが大切である。
109	はがき	男性	70代	知恵シルバーセンター	役所の方は、一度退職すると、地域とはかかわらない方がほとんどである。自分たちが培ってきた「知恵・知識・情報」を生かしていない。私は20年以上、色々な地域役員をしている。「知恵と知識と情報」に「情熱」を加えて地域の奉仕活動の支えとなるようにしていただきたい。
110	手紙	団体		知恵シルバーセンター	「知恵シルバーセンター」はおさまりの悪いネーミングだと思う。団塊世代の地域デビューとその支援についての工夫が大事である。
111	手紙	団体		一人暮らしお年寄りサポーター	「一人暮らしお年寄りサポーター」は類似の協力員制度との関係整理や、地域での展開方法の検討が必要。
112	F A X	団体		一人暮らしお年寄りサポーター	一人暮らしの高齢者を訪問し安否確認や話し相手になる「老人福祉員」が市長から委嘱され、地域福祉活動の担い手としても活躍されている。「一人暮らしお年寄りサポーター」と従来の老人福祉員制度との混乱が生じないように配慮することが必要である。
113	F A X	男性	60代	一人暮らしお年寄りサポーター	現在も、民生委員、老人福祉員、ケアマネジャー等が見守りを実施している。一人暮らしお年寄りサポーターの創設よりもまず老人福祉員の有効活用を考えるべきである。どうしてもサポーターを創設するのであれば、老人福祉員、民生委員等と有機的に連携し、高齢者に役立つシステム作りが必要である。
114	メール	男性		老人福祉員	老人福祉員として活動している人のことを評価していただきたい。民生委員より実際の現場でよく動いているにもかかわらず、民生委員より下位の立場として扱われているケースが多いのでは。老人福祉員独自の研修に対する予算措置が不十分。
115	F A X	男性	60代	老人福祉員	老人福祉員活動が一部を除いて、未だ不十分である。施設に対する介護相談員制度の地域版として、在宅介護者に対して定期訪問するよう指導と取組み強化を図って欲しい。
116	F A X	男性	70代	老人福祉員	関係機関（特に、民生委員・児童委員、老人福祉員）等の連携強化と情報の共有化が必要である。ひとり暮らしのお年寄りをサポートするにも「個人情報の保護に関する法律・条例」の施行により、対象者の実態把握が難しい。行政で把握できる情報の一部を共有することにより、効果的な活動が期待できると考える。
117	F A X	団体		すこやか学級	地域支援事業において、学区社協を中心として健康すこやか学級事業が取り組まれているが、本事業について明記されていない。本事業は門川市政で強調されている「共汗」にも資する取組なので、プラン上、明確に位置づけられる必要があると考える。
118	はがき	女性	60代	すこやか学級	すこやか学級の助成金を増やして欲しい。
119	手紙	団体		世代間交流	「お年寄り子どもたちとの交流が図れるネットワークづくりの促進」について、それをコーディネートする人材の配置やそのことに取り組む施設での位置づけが重要。
120	はがき			世代間交流	3世代世帯が少なくなってきており、高齢者と話をしたことのない子どもも増えているので、「お年寄り子どもたちとの交流が図れるネットワークづくりの促進」はとてもよい施策だと思う。このような世代を超えた交流を促進して欲しい。
121	手紙	男性	20代	世代間交流	以前ある特養に行ったら、学区内でのつながりを重視したり、子どもと高齢者のふれあいの場を持ったりという取組が行われていた。地域のコミュニティの拠点として、市としてもこのような取組を続けて欲しい。

パブリックコメントで寄せられた意見・提言

No.	提出方法	性別	年齢	意見分類	意見内容
122	F A X	団体		健康増進	保健所等における生活習慣病等を予防する施策の充実が掲げられているが、生活習慣病予防として高齢者対象事業に保健所の協力要請を行っても、高齢者を対象とした事業は所管外として対応してもらえない。プランに掲げる以上、そのような場合に対応できるよう位置づけていただきたい。
123	F A X	男性	70代	健康増進	健康づくり・生きがいづくりの事業活動を展開していくためには、更なる啓発活動の推進を望む。
124	はがき			認知症	今後、認知症高齢者が増加すると見込まれており、認知症の初期の段階から早期に発見し、適切な医療措置を受ける取組みが必要。認知症の適切な対応ができる医師のさらなる増加や、質の向上が必要ではないか。
125	手紙	男性	20代	敬老乗車証	交通局は地下鉄を中心に相当の赤字が続いている。地域の足と、高齢者施策の兼ね合いは難しいと思うが、今後、敬老乗車証の対象者の増加が見込まれるので、利用料金を検討して欲しい。
126	はがき	女性	30代	その他	第3期プランがよくわかった。
127	手紙	男性		その他	視覚障害者の高齢化も進んでいる。「中間報告」や「すこやか進行中」等、点字版の充実を願う。
128	はがき	男性	70代	その他	終末期の医療と施設の充実を望む。安心して、死を迎えることができる社会が必要。介護予防と自立をうながす事は大変良いことだが、永遠に生きられない以上、終末に大きな負担がかかっているのでは。
129	F A X	男性	70代	その他	少子高齢化現象の中で、公私立を問わず、幼稚園・保育園に将来的には高齢者の施策を取り込んだ経営のあり方について、調査研究を進めていくことを提言する。特に私立幼稚園は少子化で非常に経営は厳しいものと想定できる。
130	はがき	女性	60代	その他	70歳以上の方を独居高齢者とみなし、積極的に見守る必要があるのではないかと。
131	はがき	女性	60代	その他	女性会への助成金を増やして欲しい。
132	手紙	団体		その他	パブリックコメントを求めるために市民説明会の回数を増やすべき。
133	手紙	団体		その他	当事者家族や介護保険施設などの関係者でさえ、パブリックコメントを募集していることを知らなかった。周知方法に工夫や積極性がないのではないかと。
134	手紙	男性	20代	その他	今後高齢者の割合は何パーセントまで増える見込みなのか。
135	手紙	男性	20代	その他	これからまだまだ高齢社会は進行していくので、介護の問題について考えるきっかけとなった。
136	手紙	女性	20代	その他	市民のニーズと市のサポートがうまく合って介護のマイナスイメージが少しでもなくなればいいと思う。介護支援にはお金がかかること、人材が不足していることなどの問題が具体的にわかり、高齢社会と向き合ういい機会になった。
137	手紙	女性	20代	その他	中間報告に数値がたくさん掲載されているのはよいが、すこしわかりにくい。